

室員紹介 ～第三回 山崎課長補佐～

山崎律子

～ 平成21年10月より現職（当部署で2番目に古い）～

- ① 出身地：東京都世田谷区（京王線芦花公園駅が今年全面バリアフリーになりました。が、既に実家にベビーカーで帰ることはなくなりました。）
- ② 趣味：子供（2歳）をだしに乗り物に乗ること（今年のGWは四国にアンパンマン列車に乗る旅へ。写真のアンパンマン切符ケースはその時のスタンプラリー賞品）



国土交通省では、東日本大震災を受け、今後災害が発生した際に、被害を最小限に食い止められるよう様々な政策の見直しを行っています。現時点では進行中の内容が多いため次号以降にご紹介するとして、この場においては雑談として私がOECDにおいて地域開発などに携わっていたフランス赴任中（2003年秋～2007年春）に経験した交通に関する話題について、ちょっと変わった切り口からお話します。

<いいことばかりではないフランス事情>

1. 自転車編

今ではレンタサイクルのVelibで“自転車フレンドリー”な街のイメージが定着しているパリですが、当時は自転車専用レーンは少なく、あっても途中で切れて車道（バス・タクシー・自転車用）に合流していました。頻度は少ないものの2両連結のバス及び猛スピードのタクシーと同じ車線で自転車が走行するのは怖いものでした。

ちなみに自転車の盗難は日常茶飯事で、私の場合はスーパーで買った安い自転車をパリ中心部のデパート前の歩道のレールに2つのワイヤーチェーンで施錠し30分後に戻ると切断されたチェーンを残し跡形もなく無くなっていました。自転車の盗難については、打つ手はなかなかなく、ある同僚は、通勤用（盗まれないくらいのボロいもの）と週末用（高級MB）と分けていました。



写真：Velib 公式 HP より

2. 鉄道編

また、パリの治安の悪さで有名なのはスリです。特に鉄道におけるスリ被害には、私も未遂ですが2回経験があります。1度目は、地下鉄 Concorde 駅 1号線ホームへの階段を降りているときに、巾着タイプの鞆（写真①）に手を突っ込まれました。20歳前後の男性2人組で、1人は地図を広げて外からは見えないようにし、1人がスリを行おうとしていたようです。コンコルド駅は地下鉄の連絡通路が長く、そこで無防備に鞆を後方にかけていた日本人観光客（風）に目をつけたのでしょう。2度目は、ヴェルサイユ宮殿の最寄り駅 RER（高速郊外鉄道）の Versailles-Rive-Gauche 駅のホームにてショルダーバックの外ポケット（脇にあるファスナータイプのポケット：写真②）に入れた財布を抜き取られました。鞆が引っ張られるような違和感があり振り向くと20歳前後の男性が私の財布を持っていました。その若者は「落ちていた。」と言い張り、財布を私に返すと逃げ去って行きました。おそらく窃盗は重罪になるので、証拠の財布はさっさと手放したのだと思います。これが集団犯罪で、盗んだ財布を素早く別の仲間に渡していたら財布が戻ってくることはなかったでしょう。ちなみに、日本人出張者（男性）については、ズボンの後ろポケットに財布を入れてすられるケースが多いです。



写真①



写真②

3. とはいいつつも・・・

他にも、バリアフリー化が遅々として進まない、ストや恒常的遅延など交通機関の運行問題等多く抱えているものの、世界中から観光客他を魅了しているパリ・フランスには、交通とはかくあるべきが通じないのかもしれませんが。（とはいいつつも、そういう私も魅了されている一人ですが・・・）